

新型コロナの収束を願って



1月10日 佐原地区(公民館第6分館) どんど焼き



第 720 号

発行人 ● 豊丘村 公民館
館長 市澤和宏
編集人 ● 長野県下伊那郡
豊丘村 公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村

(2月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,330人
女 3,380人
総人口 6,710人
世帯数 2,205戸

令和二年度豊丘村成人式が一月三日に予定されていた。今年度の新成人は七十四名。コロナ禍での開催という事で、例年行っていた祝賀会の中止、全参加者の抗原検査、成人式二週間前より健康チェックをする等、前例のない形での成人式開催を余儀なくされ、新成人の晴れ舞台である式典を開催できるように、村と成人式実行委員会が中心となり準備を進めていた。し

かし昨年十二月末、新型コロナウイルス感染症の下伊那地域での感染拡大により成人式を延期することとなった。成人式延期は、新成人やその家族等多くの人達に影響を与えた。また、成人式延期以外にも今年度の新成人世代は新型コロナウイルス感染症の影響により学校生活・就職活動・職場等の様々な場面において思ったような生活ができていない。

そこで新成人に「エールを送りたい」「豊丘村は皆を見守っている」という思いから、道の駅・南信州とよおかマルシェでは、一月三日から一月十一日までの間に道の駅に訪れた新成人やその家族に村の特産品を贈呈した。この企画を行うにあたって、道の駅支配人と新成人を代表して成人式実行委員長が話し合い、進めることとなった。新成人への周知は、実行委員長がSN

に戻った女性がインターネット上で誹謗中傷された事例についての話を生徒にしました。「この女性がとつた行動は良くないかもしれないが、そういう人なら差別してもいいの?」という私(校長)の問いかけに対し、ある生徒は、「悪い人なら差別してもいいの?」と聞かれハッとした。そう思っていたわけではないけれど、心のどこかで「悪いことをした人なら、少し差別されてもしょうがない」と考えていたところがあつたからだ。その人は反省するべきではあるけれど、それは私たちがいろいろ言うことではないと思う」と、感想をくれた。



(教育委員会事務局 麦島祐太郎)

成人式延期で
新成人へプレゼント
とよおかマルシェ

Sを通じて発信すると共に、村の有線放送を活用した。贈呈した特産品は、豊丘村産の桃を原料としたビール(発泡酒)のフルーツエール「桃の誘惑」と村内企業の天恵製菓で製造されたマシマロ、「二十歳の君へ心からのエールをおくります」と書かれたメッセージカード。フルーツエールには「エールを送る」、マシマロには「新成人を優しく包むように見守る」という意味が込められている。

期間中に道の駅に訪れた新成人は四十一名で、今年度新成人対象者の約半分以上が贈呈品を受け取った。今回の成人式の延期は非常に残念ではあるが、延期したことによって少しでも以前と変わらない成人式が開催できることを願うばかりである。

(津田孝平)

シトラスリボンプロジェクト 人権学習とリボン作り 指導者講習会を開催

コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志「ちよびつと19+」によるプロジェクト。三つの輪は「地域、家庭、職場または学校」を意味しており、感染された方、エッセンシャルワーカーの方が、暮らしの中で「たいてい」「おかえり」と言い合える環境を創る。村内でも活動を広めるため、賛同を募り、愛媛特産の柑橘にちなんだシトラス色のリボンを身につけて運動を広めている。

昨年六月発行の館報第七二二号に掲載された新型コロナウイルスによる三つの感染症の三番目、「嫌悪・偏見・差別」を取り扱うにはどうしたらよいか。このプロジェクトの意義が人の心に伝わらなければ昨年春と同じ誹謗中傷が繰り返されてしまう。

(講習会の一部を紹介) 帰省先で陽性が判明した後、高速バスで東京の自宅



(教育委員会事務局 松村佐織)

人が集まる、集うことができない日々が続いており、何かの機会にシトラスリボンプロジェクトのお話をさせていただくお時間を作ってください。ボランティアスタッフが出勤します。プロジェクトの輪を広めましょう。

段丘

今月号で「北の大地」に「こがれて」の連載が十二回を迎えた。昨年からの連載を始め、ちょうど一年がたち、来月の連載が最後となる。

文章を書くことは昔から好きだったが連続で一貫したテーマを持つて書くことはじめてだったため、良い経験となった。特に連載を読んでくださった方々から「記事見たよ」「楽しみにしてるよ」「北極では野菜は育つの?」など様々なリアクションをもらえたことは新鮮でとても嬉しかった。

限られた文字数の中で北欧の文化、風習、行事などを伝えられたことはとても満足している。ただ、現地の人々の気持ちや、その場での自身の思った事を書ききれなかったことが心残りだ。今回は館報編集委員を退任するため、連載も終わりとするが、また機会があれば今回の連載で得た経験を活かしながら、北欧のことをのみならず、様々なことをテーマに記事を書けたらと思う。一年間連載を読んでいた方がありがとうございます。また二年間、豊丘村の公民館報の編集に携われたことを嬉しく思います。ありがとうございます。

寄稿

老後を健康で楽しく 生きる為に

南市場 日下部 富次

ここの何年か友達とこの飯伊地区の史蹟巡りをしている。最近新聞紙上に載っていた「力石」「芭蕉の句碑」「道標」等々。今回はこうした史蹟等ではなく、これらを探ね歩くなかで心温まる人間関係を体験した二例を紹介してみたい。

その一 芭蕉の句碑が下久堅柿の沢に二箇所あると、こので友達と二人で探索に。しかし見つからない。近くに人影も見えない。仕方なく一旦別れたが、どうも心残りだ。後は一人で出かけた。車を止めて歩いて

いると忙しうに歩いていく人を見た。失礼だと思いつて尋ねると、「何だか知らんが時々何かを尋ねてくる人がいる。近くのおばあさんが知っているかもしれない」と言っていて来てくれ、その場で案内してくれた。まさしく芭蕉の句碑だった。お礼を言ってお茶を飲んでいって下さい」とのこと。その温かい心には、

た。ここでも心地よい対応をしてくれ感動して帰る。このことを友達に話した後日お礼を兼ねて尋ねた。両者とも我々が到着して下車するよりも早く「もう一つ見つかった」と迎えてくれた。車中にある私を覚えていてくれたのだ。嬉しかった。両者の温かい心に感動した。その二 これも芭蕉の句碑を探し歩いた時のこと。碑の近くまで来ているらしいが見当たらない。外に人が見えない。そのうちに一軒の軒下で雑草取りをしている初老と思われるご婦人が

いた。車を止めて尋ねた。最初はいぶかしげな所作だったが、「私もはつきりしないから軽トラで確認に行つて来るから途中の広場で待っていてくれ」と言つて案内してくれた。広場で少し待つと帰つて来て、「その直ぐ上が公園になつてい

るからそこにあると思う」と教えてくれた。その公園には藤村、一茶、芭蕉などの句碑があった。芭蕉の句碑は遂に発見できなかったが碑以上に心温まる出会いであった。こうして歩くことも健康で長生きできる一つの方法かと思う次第です。

私には税金と聞いて一番最初に消費税を思い浮かべます。消費税とは物やサービス消費する際に課される間接税のことです。昨年には消費税率が8%から10%に引き上げられました。中学生である私は消費税率を上げることにどんなメリットがあるのかなど、税に対して疑問をもつことは少なくありませんでした。そもそも、なぜ私たちは国に税を納めなければいけないのでしょうか。

それで私は、税に興味をもち、税金のしくみや使い道を調べてみました。税金は課税主体が国である「国税」と地方公共団体である「地方税」があります。国税には所得税、法人税、消費税といった税があり、一年間に約六十三兆五千億円

ものは税が国に納められています。地方税は道府県税と市町村税に分かれ、さらに一般的に経費に当てられる普通税と特定の費用に当てるための目的税に分かれます。税には国民が直接国や地方自治体に納める間接税と消費税などを通じて国民が販売者などを通して国や地方自治体に納める間接税というものもあります。税金の使い道は国会議員が国会で話し合つて決めています。身近な税金の使い道として公共の施設の建設、維持があります。一番多く使われているのは医療、年金、介護、福祉などの公的サービスである社会保障です。例えば誰かが急病になつた時一九番通報をします。すると三六五日二十四時間いつでも救急車

は来てくれます。こうした健康や生活を守るものに税金が使われます。また、教育費として学校教育の公共サービスに税金が使われます。学校に通う生徒が学校で使う机や椅子、教科書など親が購入するもの以外はほぼ全ての教育費が税金で支払われています。中学生一人あたり、年間で約百五万円もの教育費がかかっています。このように税金は私たちの暮らしを便利で快適にする、なくてはならない様々なものやサービスとして使われています。もしも税金がなかったら私たちの暮らしはどう変わっていったでしょうか。身近な例でいくと、病院でかかる費用の自己負担があります。診察するだけでもお金はかかりますが、入院となるとさらに多額なお金がかかります。収入の低い人は費用を払いきれず、生きていくのが難しくなる可能性もあります。つまり、税金がないと、生活が不便になりみんなが困つてしまいます。そう考えると税金がどれだけ大切なかがよく分かります。

私は今まで、税金に対してマイナスなイメージを持っていました。しかし、税金のしくみや役割について理解する事で、税金は私たちの暮らしを便利で安全にするためになくてはならない大切なものだと思ふことができました。また、税を払うことで自分やまわりを豊かにできると知りました。これからはそうした目的で考えて税を納めるようにしたいと思ひます。



蛇川下流域三六災害体験談(21) 「あんなことがあったのに、なぜ…」

原 章 (古畑)

この「蛇川下流域三六災害体験談」は、これまで「過

去」のことに関係して書いてきました。
☆蛇川下流域のこれからの、大きな不安が…☆
この体験談の情報収集の中で、三六災害で恐ろしい体験をしたが為に「将来」のことを非常に心配する重要なお話も聞きました。それは、林の方で三六災害の時に家が流されたことを知っている人が「あんなこと(三六災害)があつたのに、なんで本山に残土を置くなんてことを考えるんずら」と話されたことです。私は、この言葉を強い共感を持って、大変に重く受け止めました。



残土が置かれる本山の谷

☆この様な強い心配がなぜ生じるのか？☆
まず三六災害が、この人にとつても非常に恐ろしい体験だつたということ。近くの家が流されたといつたことだけでなく、蛇川が

溢れながらゴーゴーと流れたといった怖い体験や、自身や身近な人がとても危険な目に遭いながらも災害に対処されたことなどを、はつきりと思ひ出されているのだと思ひます。そして、自然のままでも三六災害のような怖い事が起こるのに、本山に残土を置けば大きな災害の時に自然と山と一緒

に残土置き場も崩れ「更に」とんでもないことになる」と強く心配されているのだと思ひます。
大きな不安の原因はまだほかにもあると思ひます。しかし、そんな不安を無視するかのように、蛇川上流のリニア残土工事が始まつてしまつていくわけ

に「あんなこと(三六災害)があつたのに、なんで本山に残土を置くなんてことを考えるんずら」と話されたことです。私は、この言葉を強い共感を持って、大変に重く受け止めました。

また、蛇川が溢れながらゴーゴーと流れたといった怖い体験や、自身や身近な人がとても危険な目に遭いながらも災害に対処されたことなどを、はつきりと思ひ出されているのだと思ひます。そして、自然のままでも三六災害のような怖い事が起こるのに、本山に残土を置けば大きな災害の時に自然と山と一緒

に「あんなこと(三六災害)があつたのに、なんで本山に残土を置くなんてことを考えるんずら」と話されたことです。私は、この言葉を強い共感を持って、大変に重く受け止めました。

また、蛇川が溢れながらゴーゴーと流れたといった怖い体験や、自身や身近な人がとても危険な目に遭いながらも災害に対処されたことなどを、はつきりと思ひ出されているのだと思ひます。そして、自然のままでも三六災害のような怖い事が起こるのに、本山に残土を置けば大きな災害の時に自然と山と一緒

に「あんなこと(三六災害)があつたのに、なんで本山に残土を置くなんてことを考えるんずら」と話されたことです。私は、この言葉を強い共感を持って、大変に重く受け止めました。

『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん

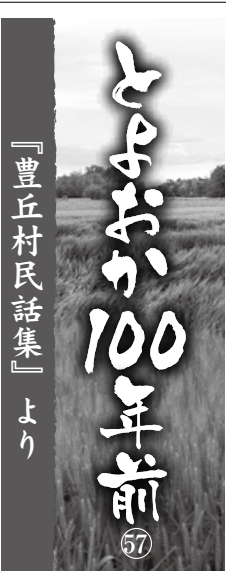
『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん

『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん

『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん

『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん

『豊らしを豊かにする税金』
豊丘中学校三年 高本郁香さん



『豊丘村民話集』より

自殺未遂の老婆の話

福沢文雄

わたしの幼年の頃、二つの大きなショックな事件に出会つた。

一つは父の死である。たしか私が四歳の頃だつたか、父が「あがりはな」で客を送り出して頭を下げたまま倒れた。かけつけた医師が横に寝かされた父の首のあたりを切つて血液を出したら、父は大きくフツツと息をついた。だが、それきりだつた。そのときの医師の動作、父の大きな息は今で

も印象に残っている。四十二歳の若さであつた。もうひとつの印象的な事件は、これから書くこととす

る本文の話である。父の死を境として我が家は音を立てて没落の一途をたどつた。飯沼の庄屋の家として栄えた家をいかにして守るかに苦慮した母は多くの遺児を抱えて奮闘したが、崩れ行く家運は女手ではどうすることもできなかった。いくつかがあつた土蔵も文庫蔵と味噌蔵を残したのみで売られ、「はなれ」も手放し「せりもの」を何

回もしたが焼け石に水のようだつた。ちよどその頃、わたしは小学校一年生だつた。わたしの生家から五百メートルほど離れたところに「あきなり」という屋号の家があつた。それは昔の別家だつた。この家も落ちぶれて老婆が一人暮らししていた。その生活の面倒は私の家で見ていた。その一人暮らしの老婆に米を運ぶのが私の役目だつた。

ある日の夕方、たしか夏の頃だつたように記憶している。外で遊んでいて母に注意されて例のごとく米を持って行つた。幼な友達である一つ年下の豊八君ほか二、三人で行つた。行つてみるとなぜかその日に限つて家の雨戸が閉まつている。

（豊丘村民話集・第巻）
（昭和五十二年）より
文責：壬生雅穂

シリーズ「元氣な高齢者」⑦⑧

人に施した親切心 実直人生に感謝

大原道人さん

九十歳
上市場在住



木曾での生活が長かったことで縁ができた二十八歳の時、木曾出身で六歳下の光子さんと結婚した。結婚を機に豊丘に戻り生活を始めたが、更に新たな技術を習得しようと飯田の職業訓練学校でブロック建築を学んだ。

昭和六年に五人きょうだいの(男三女二)の長男として現在地に生まれた。母親は産後の肥立ちが悪く不幸にも間もなく亡くなってしまい、下の三人は次母の子であった。このことで父親は随分と苦労した。

家庭は裕福とは言えず、道人さんは高等科二年を卒業後、家近くの水飴工場で働き始めた。そこで二年間ほど勤めた後、土木作業員として働き、より良い条件を求めて木曾、愛知など各地を転々とした。中でも吉川建設の下請けとして働いた

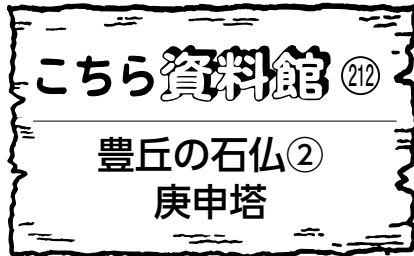
られぬよう少々無理して飲んだが、最近ほとんど飲まない。食べ物に好き嫌いの無いことが健康の元になつていてと思う。光子さんが食生活に関し何かと配慮してくれるのもありがた

年間働いた。それ以降は個人的に頼まれた時に働く程度で、それまでの張り詰めた緊張感からは解放された。公務面では、消防を五年、伴野区の土木委員を四年(地権者との交渉で苦労)、神社総代を三年(社殿新築に奔走)などを勤めた。車の運転免許は木曾から豊丘に戻ってから取得し長年重宝してきたが、最近の事故報道の多さ及び家族からの進言もあり昨年返納した。

以後は電動四輪車に乗っているが不便さは否めず外出の機会が減ってしまった。光子さんは、子供三人の子育てが一段落したのを機に、家の近くで働き始めた。十数年に亘り家計を助けた。特に喬木の電器製造会社では十年ほど勤め表彰を受けた。アルコールは本来強くは

なかったが、木曾にいた若い頃は、仕事仲間に軽んじられるという迷信から起こった風習で、仏教では三猿の像(見ざる、聞かざる、言わざる)を掛け、青面金剛を祀り、神道では猿田彦神を祀る。

庚申当日は庚申塔に線香やおひねりをしんぜて、家内安全、悪病退散などを祈り一杯飲む。その夜は、回りの宿に集まり、庚申の画像をかけて大勢が声をそろえて何回も拝む。宿では米の粉の餅を配ったり酒食



豊丘の石仏②
庚申塔

「庚申の日、夜を守って徹夜することを庚申待ち」という。この夜寝ると人の体の中に三尸虫(さんしちゅう)がこっそり抜け出て、その人の罪悪を天帝に報告して命を短くす

るという迷信から起こった風習で、仏教では三猿の像(見ざる、聞かざる、言わざる)を掛け、青面金剛を祀り、神道では猿田彦神を祀る。

庚申当日は庚申塔に線香やおひねりをしんぜて、家内安全、悪病退散などを祈り一杯飲む。その夜は、回りの宿に集まり、庚申の画像をかけて大勢が声をそろえて何回も拝む。宿では米の粉の餅を配ったり酒食

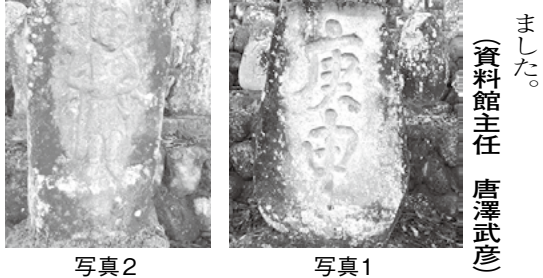


写真1



写真2

唐澤武彦
(資料館主任)

長野県社会教育委員
連絡協議会表彰
前社会教育委員の
寺澤愛子さんが
受賞

豊丘村社会教育委員を平成二十三年四月一日から令和二年三月三十一日までの五期九年間(前任者の残任期間含む)にわたりお務めいただいた上市場の寺澤愛子さんが、永年のご功績により標記の表彰を受賞されました。



この間、豊丘村生活リズム改善村民運動における「早寝・早起き・朝ごはん」の推進や南北小学校四年生を対象とした通学合宿の企画・立案・運営等に多大なご尽力をいただきました。現在は、豊丘村コミュニティスクールの地域コーディネーターとして積極的なその運営に携われ、数

俳句 短歌

- 磯部セツ子 田中 静 片桐 洋子 森田 恵子 木下 真水 松岡 照子 宮下 純子 林 恵美子 丸山 時子 矢島千勢子 池田 美和 細井 恵子 吉川 明子 河手 洋子 北原 昭子

〈とよおか短歌会〉
日記には梅の剪定したとあり畑には霜降り今日は小寒
筒井 恵子
赤石岳の初日に向い関の声鶏冠が並ぶ柿の木の上
福澤貴美恵
短歌集米寿記念に婿さんが「手づくりします」とうれしい言葉
壬生 千春
支えられ今がある思ひにひたりいる門松飾り終へしたまゆら
毛涯百合子
小豆まいて育てて炊いたと餡くれるはにかみながら九歳の男孫
大原真由美
忘れ来て老眼鏡の無き日びは机の隅に新聞溜まる
松尾ヒサコ
友くれしお洒落な手袋今朝はめくし柿出荷の指先温し
北澤 秀子
十円玉投げて幾つも願ひたり賽銭箱を覗けば千円札数多
福澤 龜人

公民館まつり中止に
例年2月に開催していましたが、コロナ禍により各団体の活動(練習等)が不十分であることや感染拡大防止の観点から中止となりました。

とよおか寄席中止に
2月27日に予定しておりました、三遊亭金馬寄席は中止となりました。金馬師匠は、三遊亭金時改メ五代目三遊亭金馬を8月に襲名され、東京都の五つの演芸場にて9月から11月に襲名披露興行をされました。来年度賑々しく開催できますこととご期待を!

《豊丘村川柳クラブ豊柳会》
素朴です独り朝食今日もチン 小澤 凛
独身もたまにはほしいだんな様 鎌倉美登里
独裁者民を締め付け煽動す 桃沢 健介
独楽消えてスマホ手にする現代子 林 もも子
▼自由吟 桃沢健介 選
コロナ菌庶民の暮らし打ちのめす 西元 峯子
寺社行かずコロナ収束自主祈願 原 美風
GOTOの源資は民の納め財 神稲 邪道
コロナ禍で五輪は無理か赤字増 久保ひろし
軸吟：後手後手のコロナ対策先は闇

～シリーズ～ 豊丘の自然
No.205

イソシギ（シギ科）



一月のコラムを見て、佐原の木下さんから「ツチガエルでは？」と写真が公民館に届いた。村民の方が動植物に心を寄せていただくことが私の願いだから、こんなにうれしい事はない。

今月はイソシギ。飯田・下伊那は天竜川こそ流れているが、大きな池が少ないこともあって、ガンカモ、カモメ、シギ、チドリの仲間

モメ、シギ、チドリの仲間には少ない。しかも、通年となると、一部のカルガモと、イカルチドリ、イソシギぐらいだろうか。

英語を学べる機会ができてとてもうれしかったです。それに、囲碁ボールをやっている時とても簡単な英語ばかりでとてもやりやすかったです。

今回の撮影で初めて本格的に囲碁ボールをやらせてもらいました。最初は緊張したけど、やってみたら実際楽しかったです。

英語を学べる機会ができてとてもうれしかったです。それに、囲碁ボールをやっている時とても簡単な英語ばかりでとてもやりやすかったです。

英語を学べる機会ができてとてもうれしかったです。それに、囲碁ボールをやっている時とても簡単な英語ばかりでとてもやりやすかったです。



公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

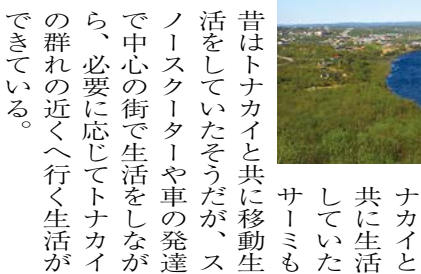
公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

公民館社会部では、英語を使いながら囲碁ボールに挑戦する「Let's try Igo-Ball」を開催した。

子ども英会話教室
Let's try "Igo-Ball!"
令和3年1月10日（日）

北の大地にアコがれて
～北極圏で季節を感じる～
津田 孝平 #12



ジが強く、夏のイメージはわからない。私が北極圏に降り立った十月二十九日も気温は氷点下を下回り、雪が舞っていた。そこからの日々はまさに真冬だった。

真ん中に広がっている真っ白い部分は村の中心に流れている河で、冬季の間は凍り、上を歩いたり、スノーシューで渡ったりすることが出来る。そして迎えた五月、とうとう雪が解ける。

気候も暖かくなり、半そでまではいかないまでも薄着で外出ができるようになった。

昔はトナカイと共に移動生活をしていたそうだが、スノーシューや車の発達で中心の街で生活しながら、必要に応じてトナカイの群れの近くへ行く生活ができています。

歌は世につれ～ 九話

時を刻む「時代」

上佐原 小池 光好



四月、新年度が始まる。新年度に思いを馳せると、期待と不安が交錯する。学生は、新型コロナウイルスの影響で、心中穏やかではないだろう。勤め人の最大の関心事は人事異動であろうか。



ゆきの「時代」である。♪だから今日はよくよしな期待と不安が交錯する。学生は、新型コロナウイルスの影響で、心中穏やかではないだろう。勤め人の最大の関心事は人事異動であろうか。